

令和5年度 柏四小 学校評価(自己評価)

学校教育目標 「グローバル人材の育成」(グローバル+ローカル)

重点目標 ・共生的な態度の育成 ・主体的な態度の育成

めざす児童像 「人を大切にする子」 「自分で考えて行動する子」

※グローバル人材の基盤となる力を多様性を理解した上での行動力とし、「共生的・主体的な態度の育成」を重点に取り組んだ。

目標達成のための手立て		自己評価
共生的な態度の育成 人を大切にする子	個のよさ・可能性を認め協働する集団づくりを通して、自己肯定感・自他の人権を尊重する心を育む。(自分を、まわりの人を大切にする。)	(B) ・コロナが5類の指定を受けたため、できる限り保護者公開を目指した。異学年交流の活動を通して、個のよさに気付くと共に、自己肯定感も向上したことがアンケート結果からみえた。 ・交流を通して多様性の理解が促進できるよう、地域学生ボランティアの受入、異学年交流、地域のお年寄りとの交流(書き初め)を実施した。 ・アンケート結果から効果が認められるが、今後も個に応じた支援が必要である。
	挨拶や礼儀、きまりの意味を考えさせる指導を通して、主体的な規範意識や社会性を育む。(まわりの人を大切にする。)	(B) ・規範意識を高められるよう、全校で月目標の取組、児童による挨拶運動、継続的な指導をしてきた。学校行事を通して、高学年の姿を低学年に見せることは、お互いに良い影響だった。 ・児童・保護者アンケートの結果では、挨拶・返事は良好である。次年度は、主体的な態度をさらに育成していきたい。
	「分かった・できた」を実感させる学習活動を通して、知識技能、学ぶ意欲の定着を図る。(自分を大切にする。)	(A) ・校内授業研究を「算数科」とし、【話し方名人】と【聞き方名人】を目指し、全校で授業改善に取り組んだ。 ・地域人材を活用し、2, 3, 5, 6年対象に、ステップアップ学習会を実施した。 ・教科担任制による取組も1・3・4年で実施し、一定の効果が見られた。次年度も実態に即した支援ができるよう、各学年の実態に応じて導入したい。
	「地域を知る・地域にかかわる」学習活動を通して、地域愛を育む。(地域の人を大切にする。)	(B) ・「地域の職場学習」「地域の環境学習」の際には、地域の人材を講師としてお招きしたり、直接に現地に行って学習したりと、地域の協力を得ながら体験学習を実施した。 ・児童アンケート結果では「地域への貢献に関すること」に90%が肯定的評価をしている。今後、地域のお祭りや行事が再開する中で、子供たちの行動変容を見取っていきたい。
主体的な態度の育成(自分で考えて行動する子)	子供主体の授業、読書推進活動を通して、思考力・判断力・表現力を育む。	(A) ・校内授業研究のテーマを「思考力・判断力・表現力を育成する指導法の工夫」とし、外部講師から指導を受けながら、授業改善に取り組んだ。聞き手が反応や質問を示せば、話し手はそれに応えようとするなど、表現力の向上につながった。 ・反応や質問ができる聞き手になるまでの個人差が大きいので、継続した聞き方の指導や聞く「目的意識」を持たせることが課題である。
	子供に任せる場、挑戦させる場の設定を通して、自分で考え行動する力を育む。	(B) ・委員会活動や係活動等の自治的な活動や多様な集団活動の場では、自分たちで行動できるよう、取り組んできた。児童アンケートでは、「多様な学習を楽しめた」と96%が肯定的に回答している。 ・昨年度同様、教員自身が教員主導から児童主体へと意識改革し、自ら課題を見つけて改善にむけて行動する力を育成していきたい。
	体育科の授業を通して、運動量を確保すると共に、「できた」を実感させ、日常的な体力づくりへの意欲を育む。	(B) ・体育関係(水泳指導、運動会、持久走大会)の学習を通して、体力の向上に努めることができた。 ・児童や保護者アンケートからも満足度の高さ、運動に対する意欲の向上につながっていることがわかり、本年度の大きな成果である。
	基本的な生活習慣の確立、災害・感染の理解を深める指導、訓練を通して、「自分の身は自分で守る」力を育む。	(B) ・定期的に避難訓練(告知在り、告知なし、授業中、授業時間外等)を実施し、一人一人が自分で考え、安全に身を守る行動ができるよう、訓練の積み重ねを大事にした。 ・各学年の発達段階に応じて、柏警察や専門家と連携し「交通安全教室」「着衣泳」「不審者避難訓練」を実施した。 ・アンケート結果は高い評価である。
協働	(B) ・学校の様子を知る機会として、学校だよりやHP(日記や校長室より)で教育方針や活動の情報発信に努めた。 ・コミュニティ・スクールも4年目を迎え、学校運営協議会を中心に、地域の方と顔の見える関係を築くことができています。 ・次年度は、教育課程を通じて、地域人材と学習活動をよりつなげていきたい。	

《評価基準》

A 適切な取組がなされていて、十分達成できている。

B 適切な取組がなされていて、おおむね達成できている。

C 取組はなされているが、成果が十分ではない。

D 取組が不十分で、成果があがっていない。